

は し が き

原爆投下50周年まで、あと4年となりました。高齢化社会のなかにあつて、原爆被爆者も加齢化が進んでいます。原爆を、そして戦争を知らない世代が長崎の、そして日本人の多くを占めるようになりました。原爆の風化が指摘されるようになっていきます。

この1年の東西関係の緊張緩和は、核戦争の恐怖を遠のかせたようにみえますが、現在なお多大の核兵器が保有されています。いまだ核戦争の恐怖は去っていません。二度と核兵器が使用されるようなことがあつてはなりません。広島、長崎の原爆は人類史上最後の核戦争でなければなりません。広島、長崎の原爆被災の医学的資料は、核兵器使用の医学的資料の人類としての最後にして永遠の遺産でなければなりません。

原爆被災学術資料センターは、これまで多くの医学的資料を収集してまいりました。またこれら資料より、未解決の被爆の医学的解明を目標とした研究に努力を重ねています。まだ原爆手帳を有する所謂被爆者の約半数は生存しています。これからも研究を続ける必要があります。

原爆被災学術資料センターは、1987年「原爆資料センター保存資料一覧」を、1988年にはセンター設立15周年を記念に、これまでの研究成果をまとめた「長崎原爆研究」と1年間の成果をまとめた「研究概要報告-1988」を発刊し、そして研究概要報告としては3年目を出すこととなりました。

原爆被災学術資料センターの使命を、よく理解下さり今後共のご支援をお願い致します。

病理学部門主任 関 根 一 郎